



作者について



金子みすゞ（一九〇三—一九三〇）

金子みすゞさんは、大正時代から昭和時代の童謡詩人です。山口県で生まれました。二十歳のころから、ざっしに童謡を投稿し、才能をみとめられました。小さいものや弱いものにやさしいまなざしを向けた詩を書いています。

他の作品



他の作品には、童謡集『わたしと小鳥とすずと』、『明るいほうへ』、『このみちをゆこうよ』（いずれもJULA出版局）などがあります。

作者について



まごおか しき
正岡子規（一八六七—一九〇二）

正岡子規さんは、明治時代の俳人、歌人です。

いよのくに
伊予国（今の愛媛県）で生まれました。

（ぼっちや）
『坊つちやん』で知られる夏目漱石とは親友でした。

見たものをありのままに表す方法を俳句作りに取り入れました。病氣とたたかしながら、俳句を作り続け、たくさんの俳句を残しています。

他の作品



とんぼ つくば
「赤蜻蛉筑波に雲もなかりけり」

どんぐり とも
「団栗の共に掃かるる落ち葉かな」

作者について



小林 一茶（こばやし いっさ一七六三—一八二七）

小林一茶は、江戸時代後期の俳人です。信濃国（今の長野県）で生まれました。

子どもや小さい動物などへのやさしい気持ちのこめられた句をたくさんよんでいます。しょうがいには、二万句もの俳句をよみました。

他の作品



「名月を取つてくれろとなく子かな」

「やせ蛙がえる負けるな一茶これにあり」

作者について



紀貫之きのつらゆき（八七〇？―九四五？）

紀貫之は、平安時代へいあんの歌人です。『古今和歌集こきんわかしゅう』という歌集をまとめた一人です。

『古今和歌集』のはじめには、和歌とはどういうものであるかを書いていきます。また、女性せいをよそおって、かな文字で『土佐日記とさ』を書きました。

他の作品



「人はいさ心も知らずふるさは花ぞ昔の香かにほひける」

「袖そでひちてむすびし水のこほれるを春立はるたけつけふの風やとくらむ」

作者について



おおとものやかもち
大伴家持（七一八？―七八五）

大伴家持は、奈良時代の歌人です。日本で最も古い歌集である『万葉集』をまとめる際に中心となりました。

『万葉集』には家持の歌が最も多くのせられています。三十六歌仙（藤原公任という歌人が選んだ、すぐれた三十六人の歌人）の一人です。

他の作品



「我がやどのいささ群竹吹く風のかそけきこの
夕かも」

「かささぎの渡せる橋におく霜の白きを見れば夜ぞ
ふけにける」

